

グループワークの検討事項について

資料 3

No.	検討事項	内容	市における取組の現状	グループワークでのまとめ
1	「希望をかなえるヘルプカード」の利用普及	ヘルプカードとは、自分が望んでいることを、安心してスムーズにできるために自分が使うカード。周りの人に自分が望むことやお願いしたいことなどを書いておき、必要な時にだけ見せて使う。 認知症施策推進大綱「ヘルプカードを自治体に対し周知し、利用を促進する。」や生駒市第9期介護保険事業計画の第4章「認知症の人が尊厳を保持し希望を持って暮らせる社会の実現」中、「認知症の人が自らの意思に基づき、生きがいづくりや地域活動に参加できるよう、希望を叶えるヘルプカードの利用等、環境整備を進めます。」としている。	市としては、ヘルプカードの普及させる取組は行っていない。	
2	行方不明者対策についての意見交換会（多職種連携研修）	「行方不明にならずに、安心して外出できる地域づくり」と題し、警察、医療機関、その他関係機関で意見交換や研修を実施する。	・認知症高齢者声掛け訓練～みんなで体験してみよう～を、行方不明による事故を未然に防ぐことを目的として、認知症サポーター養成講座と声掛け訓練を、自治会、包括、市が参加して実施（R4：3自治会、R5：3自治会） ・行方不明高齢者検索ネットワークシステムの運用：行方不明になるリスクがある人が事前に市に登録し、包括と警察で登録情報を共有している。	
3	グループホームで当事者とのミーティングを開催	グループホームを訪問し、当事者とミーティングを行い、どのようなことを必要としているか等を話し合う機会を設ける。	認知症カフェ（6か所）と当事者ミーティング（2月に1回）を実施している。	
4	スローレジの導入（スーパー）	高齢者や認知症の方、障害者、妊婦、子連れなど、ゆっくりと安心して支払いがしたい人に向けて作られたレジ。自分のペースで会計ができ、各地で広がりを見せている。スローレジを導入できないかを検討。	生駒市のスーパーでは実施されていない。	
5	当事者とともにつくる「認知症の人にやさしいお店づくり」	認知症当事者が実際にお店での困っていることや、従業員が接客事例から不安なこと等を、お店と当事者、包括、その他関係機関が実際に対話し、当事者目線で、誰もが楽しく買い物ができる環境を目指し連携する。	来年度以降、包括連携協定を締結している近鉄百貨店で認知症サポーター養成講座などを実施していくことを検討中（従業員が講座を受講されたお店は、「認知症にやさしいお店」として	
6	医療機関向けの認知症サポーター養成講座の実施	医療機関向けの認知症サポーター養成講座を実施し、医療介護連携を強化する。	令和5年度は、生駒市立病院で実施した（57名受講）	
7	小中学生向けの認知症サポーター養成講座へ参加	地域包括支援センターを中心に実施している認知症サポーター養成講座の現場に参加するとともに、専門職の立場から話をする機会を持つ。	小中学生向け認知症サポーター養成講座を4校実施した	
8	高校生対象の部会員による出前講座の実施	各部会員が、テーマを決めて、ミニ講座を実施。医療介護分野に興味を持ってもらえるきっかけとする。	認知症サポーター養成講座を実施している	
9	認知症に関する冊子（医療編・生活編・リハ編）	高齢化に伴って、近年認知症への関心が高まっている。認知症について市民の皆さんが知りたいことを、医療やリハビリ、薬など各分野でまとめた冊子（チラシ）を作成する。	広く市民の皆様に気軽に手に取ってもらい、認知症についての正しい知識を得てもらう目的で「認知症の基礎知識」を作成、配布している。	
10	「認知症になったらまず読む冊子」の作成	「もしかして？」「あれ？」と思ったときに手に取る一冊。違和感に対処し、前向きに、自分らしく生きるヒントを見つけられるような冊子を作成する。	「認知症ケアパス」を作成している。	